

篤志面接委員20年

藍綬褒章 島津教恵さんの受章を祝福



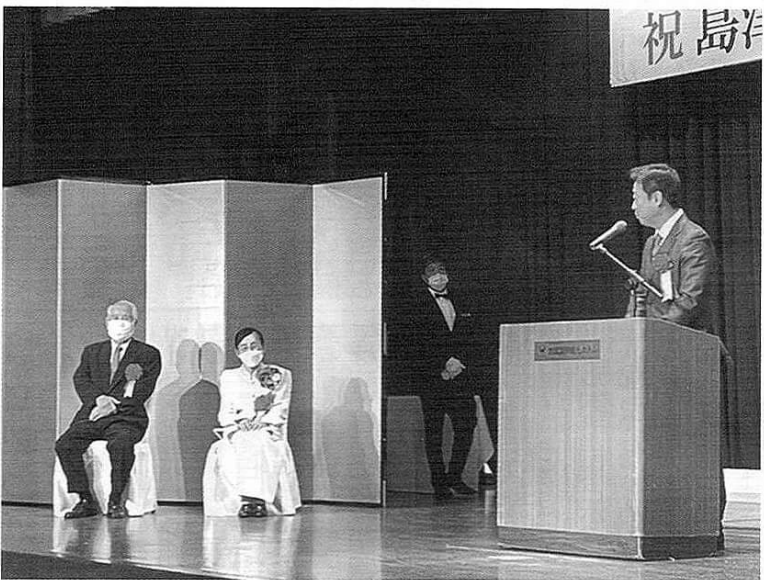
岩国刑務所（内藤睦所長）の篤志面接委員を務めている島津教恵（しまつ・みちえ）さん（85）が今年春の藍綬褒章を受章したことを祝う祝賀会が2日、岩国国際観光ホテ

ルで開かれ、約80人が集まった。岩国俳句協会の会長でもあ

り、出席者を前に謝辞を述べる島津さん

る島津さんは女子刑務所の岩国刑務所の篤志面接委員として20年にわたって受刑者の俳句クラブを指導しながら矯正行政に情熱を注いできた。保護司や人権擁護委員、岩国地区更生保護女性会会長なども務め、女性問題解決に寄与した経験も活かしながら指導を続け、こうした功績が認められて藍綬褒章の受章が決まった。

祝賀会は法務省広島矯正管区篤志面接協議会会長の岩見屋健氏のほか、島津さんが活動に関わっている岩国ユネ



島津さん夫妻に祝辞を述べる福田市長

いて発起人を代表して岩見屋氏があいさつ。「今回のご受章の意義は島津先生のお喜びはもちろん、篤志面接委員について少しでもご理解いただくことにあります」と平成17年の監獄法改正で、刑務所は罪を犯した人を罰する施設ではなく、立ち直りや社会復帰を支援する教育施設となったこと、篤志面接委員は専門的知識や経験に基づき、全国の刑務所や少年院など矯正施設で被収容者の社会復帰を手助けしているボランティアであることを説明した。

篤志面接委員として全国で約13000人、中国5県で114人、岩国刑務所で14人が活動している。岩見屋氏によると「塀の中」は社会の縮図。高齢化の波も押し寄せ、その中で被収容者は日々、更生に励んでいる。島津さんは俳句指導を通じて四季の豊かさや

日本の風土、自然に触れる機会を設けており、「受刑者を俳句仲間と思つて接している」という島津さんの取り組みを紹介して「これからもご指導ください」と話した。

続いて登壇した福田良彦市長は、島津さんが市内の学校においても俳句教室を開くなど、岩国市の文化振興に貢献し、ユネスコや男女共同参画社会推進協議会のメンバーとしても活動していることを称えた。

岩国刑務所の内藤所長は「岩国刑務所は約2000人を収容しており、事件や被害者のことを振り返ることの大切さを知るためにクラブ活動に力を入れています。俳句クラブでは受刑者の新たな一面を垣間見ることができるとなり、こちらも気づかされることが多い。俳句指導を通じて自分を見つめ直すことが出

来ていると思います」と刑務所を代表して改めて感謝を島津さんに伝えた。

祝福のことばや記念品や花束の贈呈を受け、島津さんは謝辞の中で、「たくさんの方のおかげです。心より感謝しています」と述べ、これまでを振り返り、「岩国に来て60年になります。来た当初は家族の他に知る人はおら

ず、専業主婦でした。やがて学校のPTA活動、連合婦人会などで一挙に仲間が増え、いろいろなボランティアグループで多くの方と知り合い、力つけていただいた。ありがとうございます以上の言葉がないかなとも思いました。私の何よりの宝と思ってこれからも前に進みたいと思います」と話した。